

1 - 2 函館付近の群発地震活動 (続)

On the Earthquake Swarm near Hakodate, southern Hokkaido (to be continued)

北海道大学理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

1978年10月23日より函館付近で発生し始めた群発地震活動についての経過報告はすでに本会報に出されている^{1),2)}が、1979年11月現在でもまだ活動は続いているので、これまでに報告した事項の改訂、その後明らかにされたことを含めて再び報告する。

第1図は活動概況であり、前回の報告以後では8月初めに大きな地震が続いたので新しい活動期の始まりではないかと注目されたが、とくにそれ以上活発化することなく現在に至っている。最近では活動の低下は認めがたく、定常的な活動が続いているように見えるが、1978年10月以前の少なくとも2年間では活動は全くなかったのだから、いずれこの状態に復すると考えれば、なお今後の活動状況を監視する必要がある。

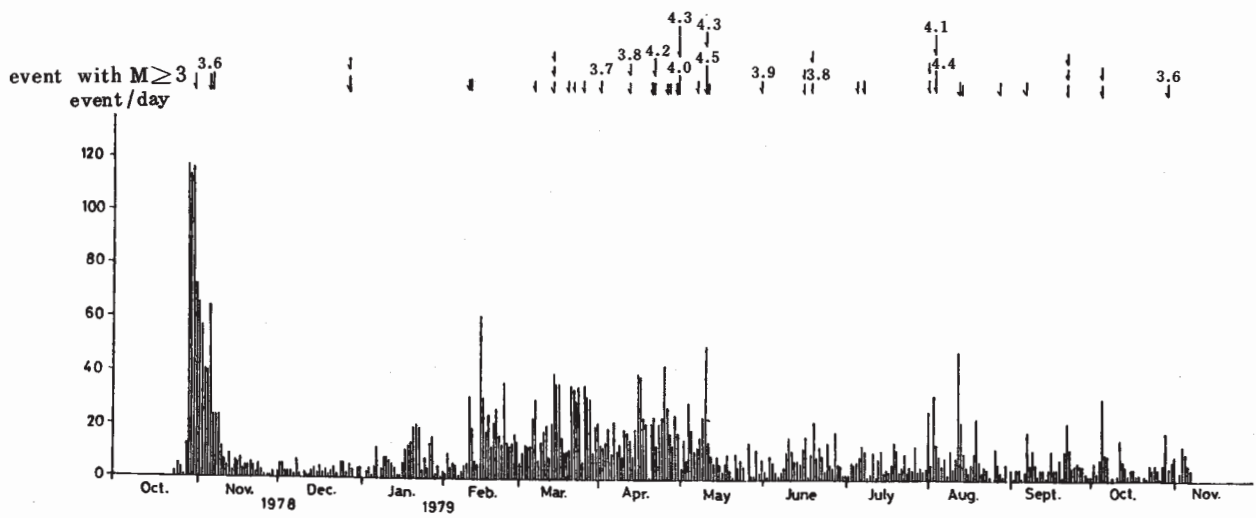
第2図は震源分布である。震源域は1979年4月以降については、函館山寄り(NW-region)と、南東に約5Km離れた所(SE-region)の2群に分れていて、中央付近では活動がみられないのが大きな特徴である。前回(第22巻, 16頁, 第3図)には「1978年11月の初期の活動の震源は中央にあり、79年4月までの間に震源域は北西南東方向にのびて中央付近では地震はほとんどなくなった」と報告したが、この時の震源決定手続きに不統一があり、その後震源を再検討した結果では11月の震源はNW-regionにあり、中央付近では今回の活動が始まってからこれまでに全く地震が起きていないことがわかった。

2つの震源域での活動状況を対比すると、79年4月~8月ではSE-regionが活発で、その後はNW-regionが活発化して現在に至っている。

(本谷義信)

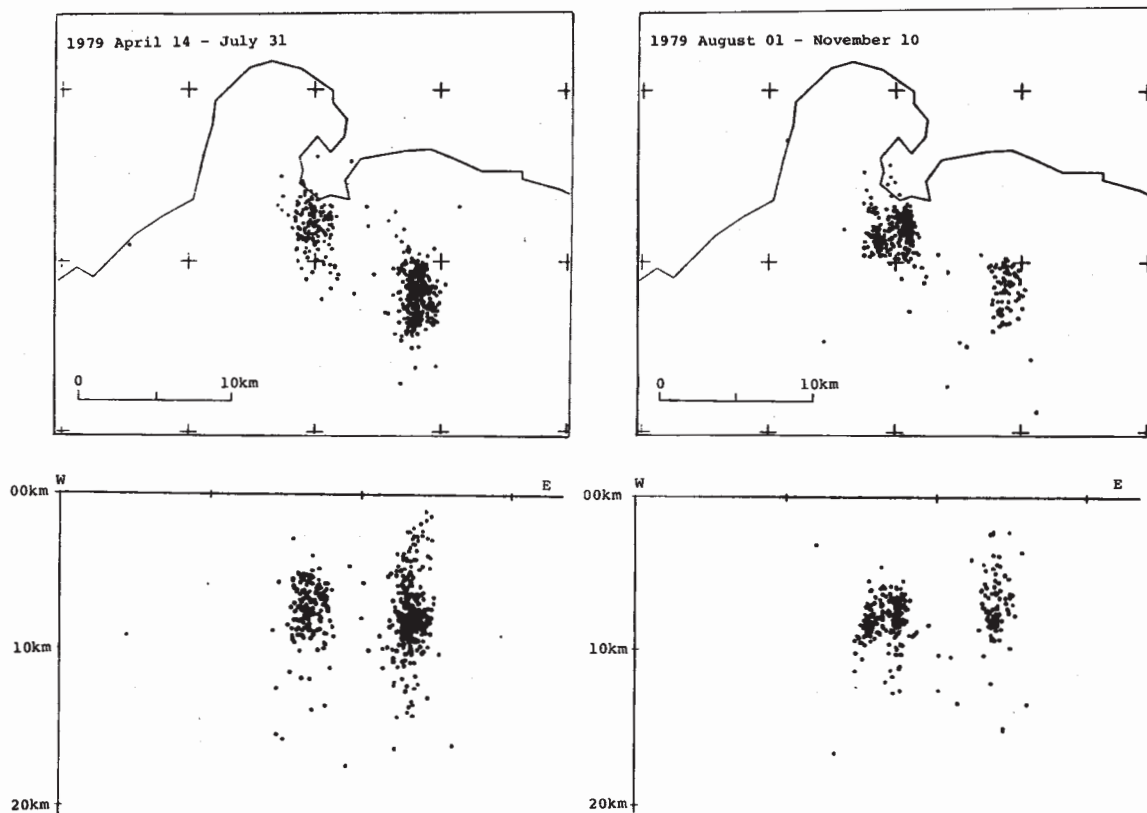
参 考 文 献

- 1) 北大理学部：北海道周辺の最近の地震活動，連絡会報，**21** (1979)，1 - 3.
- 2) 北大理学部：函館付近の群発地震活動，連絡会報，**22** (1979)，14 - 16.



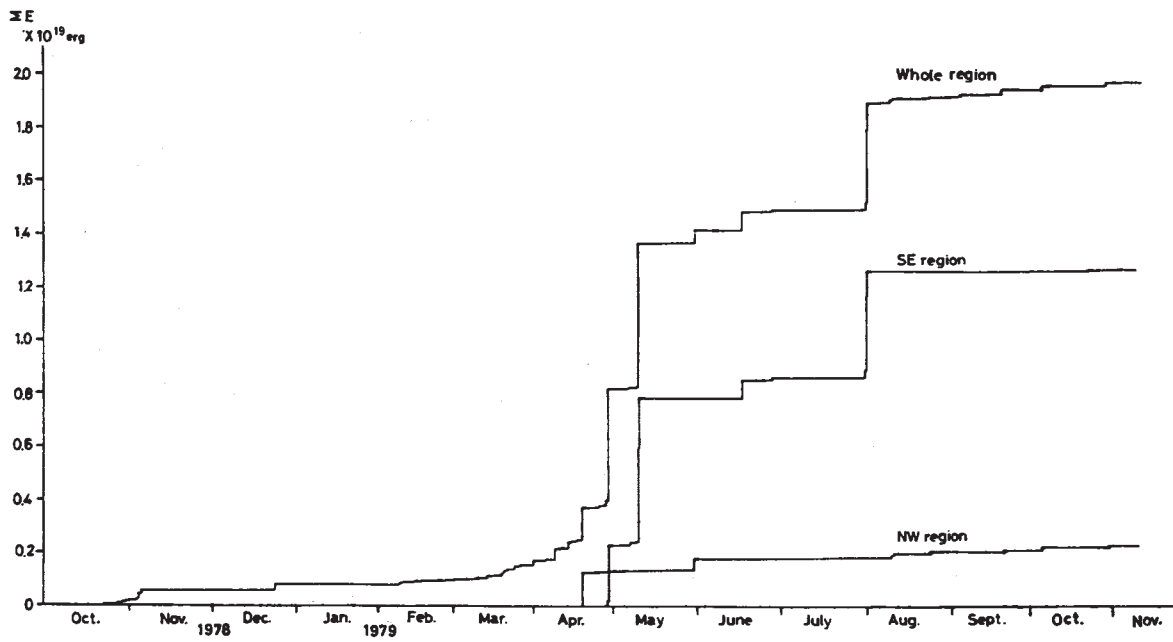
第1図 函館群発地震日別発生頻度. 恵山観測点 (ESH) で観測された $M \geq 0.0$ の地震を数えた。 $M \geq 3.0$ の地震の発生時を↓印で示す。

Fig. 1 Daily frequency of earthquakes with $M \geq 0.0$ observed at ESH station.



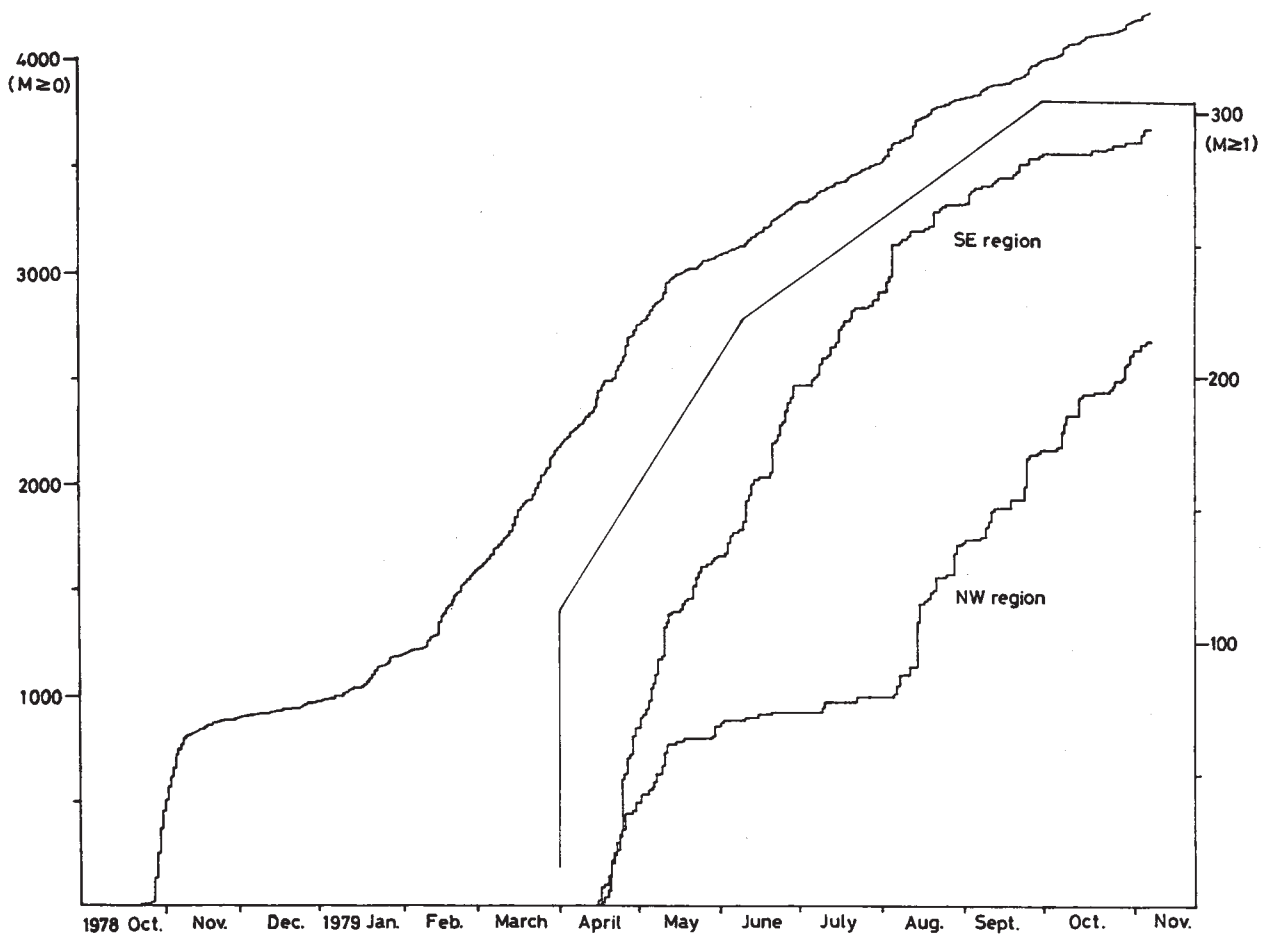
第2図 函館周辺に展開中の臨時観測網で決められた震源分布 (観測点は文献2) を参照)。

Fig.2 Location of earthquakes observed in a temporary seismic network around Hakodate.



第3図 放出エネルギーの積算

Fig. 3 Accumulative earthquake energy.



第4図 地震回数の積算

Fig. 4 Accumulative earthquake number.